

大林道路は静岡県立科学技術高校の都市工学科の1年生41人を県内で施工中の新東名の現場に招き、見学会を6月26日に開いた。次代を担う若者に道路建設業界の社会的貢献度や魅力を伝え、建設業への関心を深めてもらうのが狙い。発注者の中日本高速道路会社の協力を得て、新東名の神奈川・静岡県境をまたぐ谷ヶ山トンネル（新御殿場IC間）（延長約13キロ）の本線コンクリート舗装版工事の施工状況などを見て回った。

同工事の施工は大林道路・佐藤渡辺が担当。一部区間を先行整備し、車の自動運転技術の検証フィールドとして活用している。見学会の冒頭、大林道路の長井伸芳所長は「当現場では自動運転のために道路の表層まで仕上げが終わっている区間、これから施

大林道路 道路舗装の知見深める

工していく区間の両方を見ることが出来る。道路について分からないことに気付き、現場から学び、皆さんの今後に役立ててもらいたい」とあいさつした。

見学会では、まず現場近くの新東名建設事業のPR館に立ち寄り、工事の概要やアスファルト舗装・コンクリート



あいさつする長井所長

舗装などについて担当者から説明を受けた。当日は雨天のため、生徒らはバスの車窓から表層完成区間、コンクリート舗装の施工中区間、トンネル・長大橋区間を見学し、現場技術者から施工のポイントなどを聞きながら知見を深めた。



舗装工事が完了したトンネル坑内を見学する生徒ら

静岡県立科学技術高校生招き新東名で見学

舗装工事が完了しているトンネル坑内ではバスを降り、土木構造物のスケールの大きさを体感。建設現場を初めて見学した女子生徒は「トンネルの中をかなり歩いても先が見えないほど大きかった」と興奮した様子だった。

見学後、生徒たちから現場関係者に向けて「最初に工事や舗装のことを伺ってから現場を見たことで、仕組みや構造をよく理解できました。今後の土木の授業や実習に今日の経験を生かしたいと思います」と感謝の言葉が伝えられた。

引率した教師は「学校の授業だけでなく伝わりにくく、分かりづらいこともある。実際の現場を見て、習ったことを復習したり、新しいことに気付いたりしてくれば」と話している。

